

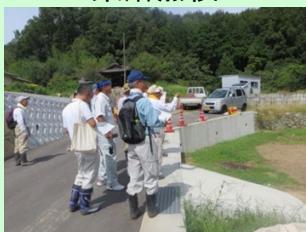
一般住民とともに地域で進める被害対策（広島県福山市芦田町福田割石地区）

- 農家と非農家の混住地域において、非農家も参加する被害対策協議会を設立し、イノシシの被害対策を実施
- 侵入防止柵の適切な維持管理により、平成25年の被害額約200万円から平成29年には被害額ゼロに。その後も被害額ゼロを維持
- 被害対策を活用し、地域住民が参加する里山ウォーキング等のイベントを実施。一体感が高まり地域が活性化

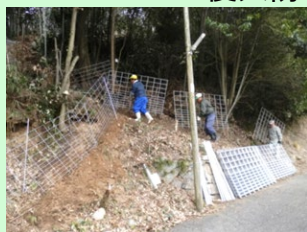
取組内容

- 地域の全戸を戸別訪問し、被害対策協議会を設立
- イノシシ被害を防ぐため、ワイヤーメッシュ柵の設置や潜み場の除去、自動撮影カメラを活用して地域での捕獲も実施

集落点検



侵入防止柵の設置



柵周辺の環境整備



潜み場の除去



地域で取り組む捕獲

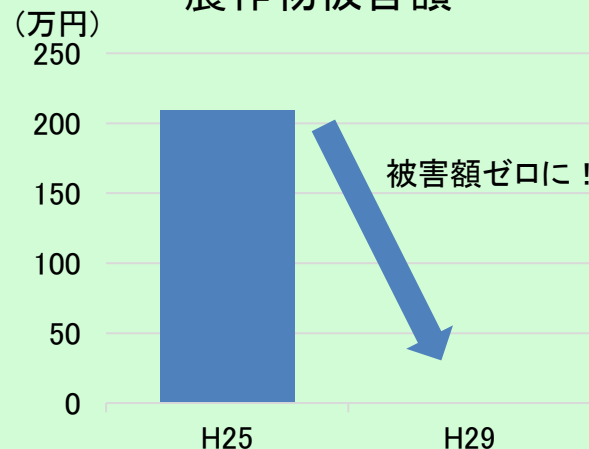


- 地域住民の関心を高めるため、柵の管理道を遊歩道として整備
里山ウォーキングを開催したり、伐採した竹で加工体験等を実施

成果

- 非農家も参加して地域で一体的な被害対策を実施
- 農作物被害額がゼロに
- 柵の定期点検により、対策の効果は維持
- 鳥獣被害に対する地域内の関心が向上
- 環境美化などの地域活動も活性化

農作物被害額



一般住民とともに地域で進める被害対策(広島県福山市芦田町福田割石地区)

きっかけ・背景

- 割石地区は、230戸のうち農家が32戸(14%)で、非農家との混住地帯。農地面積は7.3ha、水稻を中心にかんしょ、かぼちゃ、さといも等を栽培
- 地域で年々拡大するイノシシによる農作物被害や住民の安全に対する危機感が顕在化

課題

- 地域に非農家が多く、農作物被害対策に関心の薄い人が多数
- ネットを張る等、個人で被害対策を行っていたが効果なし

Step1 推進組織立ち上げ(H25)

- 町内会の役員らがイノシシの被害状況をまとめ、地区全体で対策に取り組むことで合意
- 町内会の役員が全戸(230戸のうち非農家8割)に戸別訪問して実態を説明
- 鳥獣被害対策協議会を発足し、157戸が入会

Step2 みんなで勉強(H25~H26)

- 協議会役員が県の鳥獣被害対策集落リーダー養成講座を受講した後、協議会主催で地域での勉強会(6回)を開催
- 集落点検を実施。結果を地図に落とし、地域で情報を共有。鳥獣被害対策を検討

柵の管理道をウォーキングに利用



伐採した竹を使った竹細工体験



取組の特色

- 非農家が8割の地域で全戸の戸別訪問を実施し、被害対策協議会を設立。侵入防止柵の設置、環境改善などの対策を実施
- 柵の管理道を住民がウォーキング利用できるよう遊歩道として整備したり、潜み場対策として伐採した竹を活用して竹細工するなど、被害対策と地域の活動を連動化
- 地域住民自らが狩猟免許を取得して加害個体を捕獲
- フラワーロード作りなどを通じて住民の交流も推進

取組による成果・効果

- 非農家も参加して被害対策協議会が設立され、地域で一体的な対策を実施
- 協議会や「まもり隊」の活動が定着し、対策を継続して行うことにより、イノシシの被害額は3年足らずでゼロに。その後も被害額ゼロを継続している
- 柵の修理や周辺の緩衝帯整備により侵入防止効果を維持。ワイヤーメッシュは、10枚ごとに番号札を付け、地図に番号を記載。破損箇所などを番号により共有し、速やかに補修できる体制を構築
- 若い年代の参加者も増え、子どもたちも含めて鳥獣被害に対する地域内の関心が向上
- 地域内で交流が生まれて一体感が醸成され、町内会での防犯マップの作成や「有地川フラワーロード作り」として河川沿いにスイセンやヒガンバナの球根を植えるなどの地域活動の活性化にも寄与

Step3 国・県の支援を活用(H27)

- 「鳥獣被害防止総合対策交付金事業」を活用して地区の周囲(3.1km)にワイヤーメッシュ柵を設置
- 広島県「鳥獣被害対策モデル集落設置支援事業」のモデル集落として鳥獣被害対策の活動を開始。簡易電気柵によるモデルほ場を4か所設置
- 「割石故郷まもり隊(20名)」を発足。「森林・山村多面的機能発揮対策交付金」を活用し、荒れた雑木林や竹林を伐採(2.2ha)。イノシシ等の潜み場をなくしたり、伐採した竹をチップにして堆肥化する活動を開始

Step4 柵の管理の継続と活動の広がり(H29)

- 地域住民が気軽に散策できるように柵の管理道を整備
- 管理道を歩く「里山ウォーキング」等を開催し、地域住民へ関心を高める活動を継続